

40年以上警察犬の指導を続けている

うつのみや ゆたか
宇都宮 豊 さん



「人は裏切るな、頼まれたことは責任を持って。戦争を生き抜いた父からの教えを胸に、人犬一体となって現場に駆け付ける。」

警察犬とともに事件・捜索現場を駆け回る人がいる。40年以上警察犬の指導歴を持つ、宇都宮豊さんだ。

高校卒業後、両親が営む椎茸の生産・販売の仕事の後を継いだ宇都宮さん。椎茸栽培場に訓練された番犬が欲しいと探していたところ、店の常連客から警察犬訓練所を紹介された。そこで出会ったのが嘱託警察犬だった。嘱託警察犬とは、一般の人から高度な訓練を受け、警察が実施する試験に合格した犬のこと。

「番犬のために購入した犬が嘱託警察犬だったので、地域のために役立たいと思います」。

宇都宮さんは、要請があれば事件や捜索の現場に購入した嘱託警察犬を送り出した。また、警察犬訓練所の訓練士に「警察犬を飼育するための技術を持ったほ

うがいい」と助言されたことをきっかけに、その訓練士に師事。自身も警察犬指導のノウハウを学んだ。

今までに、22頭の犬を育て上げたが、同じ犬種でも個体により性格はさまざまだ。

「寝食をともし、大切に育てれば、犬たちは現場でも期待に応えてくれます」。

16年前から、犬と一緒に現場に向かうようになった宇都宮さん。雪山や風雨など、どんな過酷な要請でも

警察犬と共に出勤する。それは、父の教えである「人は裏切るな、頼まれたことは責任を持って」という言葉があるからだ。

その姿勢が、16年間で80回以上の出勤実績に表れている。今では、北諸・西諸のみならず、時には県北からも出勤要請がかかる。

「今後も、社会のために自分ができるところをやっていきたい」。

警察犬との強い信頼関係で、今日も厳しい訓練に励む。



写真④パートナーである警察犬ラルス ⑤多くの感謝状や表彰状が警察犬指導への姿勢を物語っている